

新潟 IN 第55回自治体学校

8月3日(土)～5日(月)の3日間、新潟市朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターを主会場に、第55回自治体学校が開かれました。

全国から千人を超える自治体労働者や地方議員が集まり、自治体に関わる諸課題について熱心に討論・学習を行いました。日本共産党上越市議員からは、橋爪・平良木両議員が参加しました。上野議員は、女性後援会の集会での講師や、「頸城の祭典」への参加など、諸用が重なり参加できませんでした。

自治体学校では、橋爪議員が「孤立を防ぐ地域コミュニティ分科会、平良木議員が『社会補償制度改革推進法』と住民生活、自治体の役割」分科会に参加しました。

橋爪議員の参加した「孤立を防ぐ地域コミュニティ分科会」分科会では、社会的孤立問題の権威である河合克義明治学院大学教授が講師でした。「一人暮らしは離島、過疎地域、市中心部が多い」「まずは実態把握が重要だ。孤立死がどれくらいあるか。なんで孤立死が



増えているのかの社会的な背景も探ること」「生活保護を受ける前の段階できちんと支援していく仕組み作りが必要」などと、教授が出演した番組にもふれての興味深い講演でした。

平良木議員が参加した「『社会補償制度改革推進法』と住民生活、自治体の役割」分科会では、社会保障制度改革推進法は、社会保障のうち生活保護だけを「公助」、つまり、行政が責任を持って国民の生活を守るという位置づけにし、その他の社会福祉を、従来の「互助」、つまり、お金を払っている人だけが社会福祉を受ける資格ありとの感覚を振りまくような方向で進められていることが解明されました。

これでは、社会福祉が私保険のような位置づけにされてしまいます。

民間保険会社のような考えと、社会保険制度の考えのどちらを全面に出させるのがせめぎ合う重要な局面です。

上野議員女性後援会で熱く語る 日本共産党の大躍進でどう変わる、政治は？ 国会は？

8月4日午後、女性後援会の集いが開かれました。約30人ほどの参加でした。この集いには上野議員が招かれました。

上野議員は、まず、参院選の勝利に貢献された女性後援会の皆さんに感謝の言葉を述べると共に、この力をさらに大きくして国民の声をしっかりと国会に届け、政治を変えるために力を合わせて頑張ろうと訴えました。

そして、「国民の声を国政に反映させる発言力と活動が保障されることになる大きな勝利だった」として、参院で11ある全ての委員に委員を配置できること、内閣、農林水産、経済産業、環境の4常任委員会で理事を獲得したこと、院内交渉会派となり、議院運営委員会に理事を出せるようになったことなどを紹介しました。

「党首討論に参加できることになったほか、質問時間なども大幅に増え、国民に日本共産党の姿がしっかりと伝えられるようになった。政治が変わることは間違いない。国民の負託にこたえるために、も党を大きくしてほしい」と訴えました。

佐渡汽船小木・直江津航路の新造船導入による改善計画 文経常任委員会が佐渡汽船(株)役員を参考人として招致

4日、市議会文教経済常任委員会が開かれました。

この委員会には、佐渡汽船側から木村専務、佐藤常務、尾崎経営企画部長が、参考人として招かれました。

まず、秀沢産業観光部長から小木・直江津航路運航体制改善計画について、協議の経過報告が行われ、続いて木村専務から中型高速カーフェリー導入による航路改善計画について、尾崎経営企画部長からは導入しようとしている中型高速カーフェリーについての詳細が報告されました。

同委員会では、ほとんどの議員が積極的に質問や発言を行いました。上野議員は、特に新造船導入による改善計画の具体的な根拠や採算性の問題、県とのスキームが崩れた中での新造船導

入資金手当ての問題などについてただしました。

上野議員は、「佐渡航路は住民の重要な生活航路であり、また観光航路でもある。これを維持し、改善することは重要だ」と基本的な考えを述べた後、支援について、「多額の市民の税金を投入ことになるので、市民が納得できる根拠を示すべきだ。そうでなければ理解を得られない」として、経営見直しや輸送人員計画のシミュレーションなど、具体的な資料の提示を早急に行うよう求めました。



「もつともなことであるので、どこまで公表できるか持ち帰って検討したい。早急に対応したい」と約束しました。

また、上野議員は市に対して、「県とのスキームが崩れた中で、今後の支援を有効に行うためには、県との協議・合意が重要なだ。時間が無いといっても、積極的な関係改善を求めてほしい」と促しました。また、市の負担額については、9月議事に提案されることから、市民にきちんと説明するよう求めました。

木村専務



これに対して、佐渡汽船側は、当初は「収支予測の公開は控える」としていましたが、

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 372 2013年8月11日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

